

大砂土東小は創立 95 周年を迎えました。10 月 2 日に記念撮影をします。



令和8年
10月

学校だより

「自立と感謝」

～心ゆたかに かしく たくましく～

さいたま市立大砂土東小学校

TEL 048(684)8003

令和 8 年 9 月30日発行

どのような姿であっても

校長 石川 顕一



▲ 雨の東門

朝夕には秋の気配が感じられるようになりました。今年は天候が安定せず、雨の日が続くことがあります。そのような中でも、子どもたちは日々の学習や友達との関わりを通して、それぞれに成長を重ねています。保護者・地域の皆様には、引き続き温かなご支援とご協力をお願いいたします。

さて、保護者の皆様は、わが子の幸せを願うからこそ、日々さまざまな情報を集めたり、習い事や生活習慣について考えたりしながら、より良い選択を重ねておられることと思います。その一方で、子育てへの思いが強いからこそ、「この子は今、順調に育っているだろうか」と不安になることもあるでしょう。学校や周囲の大人から子どもの様子について心配な話を聞いたとき、思わず身構えてしまうことは決して特別なことではありません。

子どもたちは一人ひとり異なる個性と可能性をもっています。保護者の願いはあっても、そのとおりに成長するわけではありません。また、子どもたちは学校や地域の中で、多くの人との関わりや様々な評価に日々向き合っています。そのような中で、家庭までもが評価や結果を求める場になってしまうと、子どもたちは安心して自分らしく過ごせる居場所を失ってしまいます。家庭は、子どもがどのような姿であっても受け止められる、心安らく拠り所でありたいものです。

だから、子どもに関わる大人、特に保護者には、周囲の評価や一時的な結果に左右されない、揺るぎない軸が必要です。この軸の芯となるものは、「毎日を元気に過ごしていければよい」というシンプルな願いでしょう。子どもたちが将来、自分で考え、自分で判断し、自らの力で歩いていける人へと成長していくことを支えるのが、私たち大人の大切な役目です。その土台となるのは、心身の健康であり、生きる喜びを感じながら日々を過ごせることです。

「この子が元気に育ってくれればうれしい。そして、自分らしさを生かしながら社会の中で誰かの役に立つ人になってくれればなうれしい。」このような温かなまなざしを大人が共有し、子どもたち一人ひとりのありのままを受け止めながら見守っていくことが、健やかな成長につながるのだと思います。学校も保護者・地域の皆様と力を合わせ、子どもたちの成長を支えてまいります。